

平成30年度 角田小 学力アップ ターゲット5

～あたり前のことを、きめ細やかに、浸透するまで!～

◎ 目的や意図に応じて、筋道を立てて考えたことや判断の根拠を過不足なく示して、説明することができる児童の育成
6年生に対して、全国学力学状況調査の教科区分・質問紙項目において、国語科において全国平均正答率を上回る。

【目標値 国語A…100、国語B…103、算数A…94.2、算数B…98.8】

【家庭・関係機関との連携】

◇「毎日続けよう小学生の家庭学習」の活用（めあてと振り返り）

「親子の約束カード週間」の取組（学期1回）

◇「自主学習ノート」「1週間の生活の計画と記録」の取組

（質と量の充実を図る点検・賞賛、手本となるノートの提示）

★毎日、自主学習ノートをとっている
⇒保護者80%以上

◇学校評価の結果及び改善策を公表（PDCAサイクルに保護者、教育協議会を活用）

【授業づくり】

◆数理を発見、獲得、活用する学習で、考えを式や言葉、絵、図、表などで表現する活動を位置づけ自分の考えを説明できるようにする。

○「つかむ」「見通す」「つくる」段階では、学習課題の把握や自分の考えの見通しが持てるようにICTを活用し、自力解決ができるようにする。

○「学び合う」段階では、理由や根拠を明確にした交流活動を位置づけ一人ひとりの思考がどのように揺さぶられ、何が深まり、何が広げられたのかを明らかにする。

○理由や根拠をもとに、自分の考えを説明できるように、モデルとなる話型を活用することで発表への抵抗を軽減する。ICTを活用し、活発な交流活動ができるようすることで、理解が深まるようにする。

○「活用する」段階では、適用問題を位置づけ、本時学習の主眼の達成状況を確認する。

【学力基盤づくり】

◇基礎的な学力の定着⇒朝スキルに「ドリル学習」、学期末に「全校漢字テスト」90点以上合格)を行う。

◇B問題に対応できる力⇒4・5・6年生に「活用力育成教材集」、「全国・県学力調査の過去問題」を放課後スキルや家庭学習で取り組む。

◇読む力、書く力の定着⇒「年間読書量」提示(低学年100冊、中学年80冊、高学年60冊)、「全校月1作文」(テーマ、学年毎に書き方指導)

◇家庭学習の充実⇒学年×15分の家庭学習時間の徹底。自学ノートの取組充実のために、点検・評価を組織的・計画的に行う。

【教員の意識・指導力の向上】

◇全国学力学状況調査結果をもとに課題分析、改善策検討

◇「授業改善ストラテジー」「授業アイデア例」等を活用した

授業改善の研修をもとに、本校児童の課題やつまずきを重点化、学年の系統性を踏まえた授業改善

◇研究主題「数学的な表現力を高める算数科学習指導」において外部講師招聘、研究授業

（一人1単元実践とワークショップ型研究協議会）

◇指導力アップ講座・授業づくり支援チーム派遣事業の活用